

BCAO 関西地域勉強会 令和4年3月度(第166回)地域勉強会

1. 日 時 令和4年3月16日(水) 18:50~20:30
2. 場 所 Zoom
3. 司会者 梅田
4. 書記 鷺山
5. 出席者 (関西支部)飯田、梅田、萩原、柳父、別役、高杉、大館、寺岡、西濱、三橋、上辻、
中村和、福島、柳本、徳山、中島、田中、寅屋敷、野原、鷺山(20名)
(災害情報研究会)市川、高橋、前田(3名) (計名23、敬称略)

* 飯田座長:本日の勉強会は災害情報研究会の市川座長様に講師をお願いしている、司会進行は梅田さんをお願いしたい、市川座長、梅田さん宜しくお願いします。

* 梅田:司会を担当させて頂く、研究会メンバーも一部参加、西濱さん、徳山さん、中島さんもメンバーで本日参加。新型コロナ対応モデルについて、リスク対策.com のインタビューに答えている内容を事前に送付している、本日はその内容について直接座長にご説明頂きたい

* 市川座長:自己紹介、災害情報研究会(メンバー28人)の紹介に続いて、本題に入る

<本題>

* 新型コロナ対応モデル作成の背景・位置づけについて

2009年発生の新型インフルエンザ対応について、お客様に作成した対応表(エクセルシートで、社会の動き、日々の発生事象、自社の対応)の新型コロナ版がないのかと聞かれ、また世の中にコロナ対応モデルがない事に気づき2020年1月から作成開始した。

* 表の内容:今の動き、今後の動きを予測して常に先を見越して今何をすべきかを考えてもらい、それを1-2週間ごとにレビューし、アップデートしていくようになっている

* 研究会のメンバーに報告したところ、研究会としての取組もうと言う事になり、マンスリーベースではあるが、現在も将来感染症が発生したときにおいても記録として参考になるものとなっている。

* 「履歴」と言う名称ではなく「モデル」としたのは、将来感染症が発生したときに、どう対応したのかと言う「モデル」として活かしてもらいたいと言う思いを込めている

<作り方> モデル表参照

- ① 左側に「社会全体の動き」→ 下段に、社会の動きに対して「自社の動き」と言う事で、大事な事は自社の動き→「次どうする、次どうする」を考えてもらうための自社の動きを見てもらう
- ② B列に、全体な大きな動き、海外の動き、国内の動き、下に国内外の感染者数、死亡者数、病床の使用率や宿泊施設等の使用率、自宅療養者数なども記入など、ドンドン必要事項を追加可。
- ③ 行政の動き、下段にワクチンの動き医療機関の状況、下に自社の体制や準備や感染予防など、業務継続の状況、広報の動き、社内感染者対応などを記入していく
- ④ 社会の動きについては、NHKがソースとなっている、その他に厚労省のデータなども活用
- ⑤ 横軸には、月ごとに時系列にならべている、
例 2020年1月→ 本部設置マスクの在庫確認、注意喚起

- 2月→具体的な取り組みを始める、例:ガイド作成、社内での消毒開始、社員教育等
 - 3月→取引先出張自粛、会議中止
 - 4月→緊急事態宣言発出による新たな動き・・・
- と言うように時系列で動きが見える

<使い方> 自社対応を埋める → 現行のものに上書きでも OK、付け足しても OK 自社対応を入れて非表示にすると使いやすい

2009年に作った新型インフル対応モデルが、今回の新型コロナにスタート時対応できたのは、社会の動きに対して自社がどう対応したか、次に何をすべきかと言う事が参考になった。将来また感染症が来た場合、今回の対応が参考になり動きやすくなる。

マニュアルと異なる点は、マニュアルも一定のシナリオで策定されているが、実際に発生した場合はそのようにならないケースが多いが、このモデルは2020年のコロナのケースではあるが、実際に起こった動きに対してとった自社の対応が明記されているため、人事異動で担当者が変わろうとも、このモデルで先を見越すことができるので参考になる。

<質疑・応答>

- Q) 2009年策定のモデルが今回策定のモデルのベースなのか、新たな進化はあったのか？
- A) 2009年はデイリーベースと先を予測して作っていたが、今回は過去の出来事をまとめて作っているところが大きな違いである
- Q) 地震等の災害における記録の残し方で、時系列にまとめていく良い方法があるのかご教示願いたい
- A) 地震や火災のような突発型、発生してから対応するものと、時系列にドンドン状況が悪化していくものとの2通りある。突発型は発生からタイムラインが発生する、平時の備えはあくまでも「備え」であって対応は事後である、感染症や火山の噴火などは発生してから状況が変化していくも、この先を予測しながら動いていかなければならない。先を見越すことを過去から学ぶという事が大事である。事が起こってから動くのか、先を見越して動くのか、この点が大きく異なる。
- 自社でお客様に提供している災害時の対応手順をプロトコルと呼んでいるが、2タイプあり、地震とかのプロコルは発生から分単位で2時間の対応、その後の大きな流れは時間単位で48時間までの対応手順をつくっている、2時間までをファーストプロトコル、事後対応をセカンドプロトコルとしている。これがあれば、突発的な事象が起こった時の対応と、時系列で悪化していく事象の場合はXデーを設定して、-1日、-2日とか3日前のタイムラインをつくっている、180度異なる対応を提供している。
- Q) リスク対策.comの記事の中で、自社はいつ、何をきっかけに、どんな対策を決めて、発出したのか分かるように記入するとあったが、サンプルの中では何をきっかけに書かれているのかがなかったように思うが、書く欄をつくって書けと言う事か？
- A) 社会の状況のところに、色々な動きが書いてあるので、感染者が一万人を超えたからそうしているのか、緊急事態宣言が出されたからそうしたのかなど、どの社会状況の中の何がトリガーになっているのか？色々書いてあると分からないではないかと言う事だと思うが、トリガーを丸で困って線を引いてこれと関係していると書いても良いし、対応のところにこう決めたと書いても良い、別の欄を作っても構わない。

A) 市川さん作成のタイムラインはすごく良く言出来ている。感染症と地震などでは異なるとあったが、よくよく見ていくと、感染症の場合はくり返すだけ、例えば地震だと1日目に災害対策本部を設置など、2日、3日は内容が変わってくるが、感染症の場合はそこを何回も繰り返す、新しい情報をいれては対応するようになっているのでどれにも対応できる。BCPを考えた場合、限られたリソースで重要業務を継続するため重要リソースは何か、どこから取ってくるか考えるのが大事である、この表を見ながら考えていけるので良くできている。

Q) 今の表で気づいた点、社会というところで、情報の分け方でベストをつかえばよいのかなと思った。政治の動き、経済の動き、世界の動き、ワクチンは技術の動きとすれば、どの災害でもつかるとなるように思っている。

Q) 使い方について、3のステップで活用してくださいとリスク.comの中にあったが、マニュアルを作った+この表、モデルをくっつけて比較できるように用意しておくイメージか？それともマニュアルは別途の事なのか？

A) マニュアルと一体に動くべきだ、マニュアルはありき、但し、絶対に正しいと言うものではないので、落ちてきたら、検証してもらいたい。それでマニュアルを改定する。その際、このモデルを使って議論してマニュアルに反映させアップデートしていくことが大事である。この表はその改定のエビデンスとして添付しておくようにしたい。

Q) こういった貴重な過去の記録を残しても、次代の人たちは時代にそぐわないと活用してくれないのではないか、経験上そう思うが・・・

A) 面白い意見だ、このシートは読み物ではなくてデータ集であり、それをどうまとめるか、縦軸横軸の項目をどう置かかて実践的になっている。ワードの文書で何条何項と書くと上からの押し付け的になり、先輩のものは古くて嫌がるきらいがあるが、エクセルのシートは機能的・実践的で時代を越えて活用されると思っている。若い人たちと仕事をしているが、確かにワードの文書は毛嫌いすると言う感じはあるが、エクセルシートはツールとしてよく好まれる。エクセルのシートで行う事がヒントになればよい。

Q) 自社で整理している中で、文書で残しても見えてくれないと思われるが、通達とかルールの変更とか、誰がいつ何をもち変えたのか等を紐つかせておけば、あとで役立つのではないか。工夫が必要と考えている。

A) 先ほどタイムラインの話をしたが、セカンドプロコルで地震発生後に災害対策本部を設置していくが、1回目、2回目・・・と開いていく、その時に議論していくポイントがあるが、例えば、社員負傷者の数とか、支援の在り方とか、損壊した事業所とか事業所支援とか義援金をどうするかなど、考えていかなければならない項目出しをしていて、それらの項目に自社ではどう対応するのかという基本的なガイドを Excel表に作って、A列が項目、B列が基本的な対応、C列が詳しい対応という風になっている、そこにリンクを張って、考える項目は表の中「被災した社員への対応」、「見舞金」と言う事であれば人事規程の何条何項に書いてあると言う事でリンクで飛ばすようになっている。その横に過去の災害という列があり、東日本大震災と言う列、その隣に熊本地震という列があり、過去の災害の列が続く。今日また発生すれば、また追加していく。縦軸の項目に今日発生した災害で対応した事や議論したことを追記していく。そこで、何か特別な対応した場合は、どういう状況だったからこう対応したと言う事がすべてリンクで見られるように作れば、ドンドン引っ張り出して見れて、色んなノウハウのインデクスとして活用できる。

Q) Excel表の中で、この時にこれをやりました、起こった事象に対する対応策を書いていき、次回に活かすと言う事であるが、起こった対応の中でも前倒ししておいた方がよいと言う事項は作りながら思

うときがあるが、そういう時には記を付けると言う使い方をすればいいものになるのではないか。

A) その通りで、前倒しすべき事項に記しを付けるとか、自社の対応と言う部分を丸ごと下段に作ってあるべき対応を記入していくことをして欲しい。

A) 訓練が大事であり、マニュアルを検証しながら更新していくことが必要。検証していないマニュアルは内容が陳腐化しているの、後任は見てくれないのは当然だ。マニュアルを見てイメージを合わせることが重要である。自分の会社にどんな影響があったのかを追記して置く作業も重要。

Q) 我社では、災害対応は事象に合わせたフォーマットを使っており、次の災害に対して有効に機能しない、ノウハウとして残らない、キチット伝承されないという課題がある。このモデル表を活用して発生する災害ごとに対応を追加していく方法が取れば、有効に機能すると感じた、参考にしたい。

A) 発生当初は何をどうすれば良いのかが分からない時は大きく構えて、こういう事象のと時に社会はこう動くと言う事が分かってくるので、その中で検証して、自社のあるべき姿は何なのか、振り返ってどう対応すべきだったかを作る。何のトリガーで動いたのか、この事象に対してこう動くべきであったとか、掘り下げて行って欲しいと考えている。

Q) 他流試合(他社との交流)を通じて気づくと言う事が必要では？

A) 情報交換会と言う事を実施して、各社の取り組み事例を報告しあってもらっていて、お客様には喜んでもらっている。ユーザー同士の交流は良い事である。

A) 防災の中で、言われているのは障害者を受けている人、サービスをしている人によって計画がそれぞれ違う。一人の当事者にとっては違う計画をやらされているので、支援者が一緒になってやらないと本当の目標に向かった計画が作れないと言われている。災害時には調整会議が開かれていくので、やはり縦割りの計画だけでは取り残されることがある。横ぐしを指すことが大事である。BCPは上位の組織でやっていくべきであると考えている。

以上、市川座長に感謝申し上げ終了。